教員名	藤崎　宏子　(FUJISAKI　Hiroko)
所　属	生活科学部人間生活学科生活社会科学講座
学　位	文学士(1976 年、東京教育大学)、家政学修士(1978 年、お茶の水女子大学)、社会学博士(1998 年、筑波大学)
職　名	教授
URL／E-mail	http://www.soc.ocha.ac.jp/fujisaki/／fujisaki@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

高齢者　／　家族　／　福祉政策　／　社会的ネットワーク　／　ライフコース

◆主要業績　　総数（2）件

・久塚純一・藤崎宏子・本沢巳代子・犬伏由子,《座談会》高齢期を尊厳を持って生きること・支えること，法律時報 Vol.77No.5，2005 年 5 月，4-20 頁.

・平成 14-16 年度科学研究費補助金　基盤研究(B)(1)研究成果報告書，社会学者は誰に何を教えどんな人を創っていくのか（研究代表者：藤崎宏子），2006 年 2 月，第Ⅰ分冊：135 頁，第Ⅱ分冊：147 頁.

◆研究内容

①大学における社会学教育のあり方について、平成 14 年度より 3 年間にわたり科学研究費補助金を受けておこなった調査研究の報告書を、研究代表者としてとりまとめた。教育サービスの提供者である社会学者の教育実践や教育観、サービス利用者である学生の社会学教育に対する評価や要望、サービス内容の一端を示す教育プログラムのあり方という 3 つの視角から、社会学教育の現状を反省的に見直し、改善のための提言をおこなった。

②お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム『誕生から死までの人間発達科学』プロジェクト 4 のリーダーとして、中高年期の危機的移行と社会的支援に関する研究を進め、次年度に実施予定の調査準備に取り組んだ。

③高齢者介護政策の動向と家族介護の現状の間に生じている諸問題に関する研究を継続的におこなった。

◆教育内容

①卒業論文（10 名）、修士論文（1 名）の研究指導、論文指導の主査を務めた。

②内地留学中の群馬大学教授の論文指導をし、博士論文の主査を務めた。

③国費、私費の留学生 3 名を研究生として受け入れて指導し、2006 年度に、博士前期課程、後期課程に各 1 名が入学した。

◆Reseach Pursuits

①[Research Project,Grant-in-aid for Scientific Research] Who and What Do Sociologists teach and What Kind of People will be Created? :
The theme of this study is to reflectively review the status of sociological education from three viewpoints:the educational practice and philosophy by sociologists;the evaluation and request toward sociological education by students;and the modality of typical education programs that represent part of the service content.
②[Ochanomizu University 21st Centry COE Program] Studies of Human Development from Birth to Death:
As a leader of project4 in this program,I conducted the study of critical transitions and social support for midlife.
③I have been studing on discrepancy between eldery care policy and family care.

◆Educational Pursuits

①I served as mentor of 10 undergraduate students,one master's dgree student,and supported preparing graduation thesis,master's thesis.
②I accepted professor of Gunma University as a research resident,and served as mentor of her doctoral dissertation.
③I accepted 3 foreign students as research students,and guided them in their studies. One of them entered master's course, and the oher one entered doctoral course,in April 2006.

◆将来の研究計画・研究の展望

①21 世紀 COE プログラムのプロジェクト研究（中高年期の危機的移行と社会的支援に関する研究）は今年度をもって終了するが、このテーマをさらに発展させるために、科学研究費補助金を 2006 年度から 3 年間にわたり受けることができた。中高年期における発達の様態をキャリア間の関係と世代間関係に注目しつつ、継続的に考察していく予定である。
②高齢者介護政策の動向と家族介護の実態との間に生じている諸問題に関するこれまでの研究を整理し、できれば単行本にまとめたいと考えている。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

・ライフコース・パースペクティブにたった中年期の移行と支援に関する研究
・ケアに関する質的研究

◆受験生等へのメッセージ

「あたりまえ」の世界に安住しないで疑ってみること、あるいは視点を少しずらして別の面を見ようとすること。そんなちょっとした冒険が、あなたの世界を広げ、より豊かなものにしてくれるでしょう。社会学の研究テーマは無限です。研究することと、自分が生活すること、そして生きることそのものが密に絡み合っているところが社会学の魅力であり、同時にしんどさでもあるかもしれません。閉塞感の強い時代ですが、だからこそ、自分について、周囲の人間関係について、そして社会のしくみについて、社会学的思考の武器をもって、深く掘り下げていきましょう。